

The 2 Chome Times 2025年 1月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO320号.

2025年・1月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 1月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



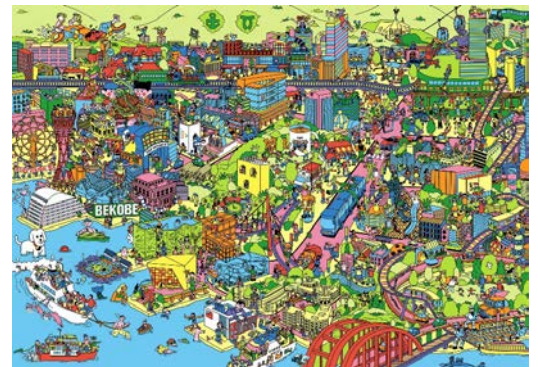
フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★三宮センター街周辺エリアまちづくり検討会がはじまっています

三宮再整備が本格化し、センター街周辺でも商店街やビルの将来のあり方について検討が行われています。身近なところでは、ドンクさんの本店が建て替えをスタートしていますが、三宮センター街は大小様々なビルが集まっています、個々にリニューアルをしようとしても、なかなか難しい上に、大きなアーケードを共用しているため、個々の建物だけでは、簡単に解決できません。また、JR三ノ宮駅ビルやバスターミナル、市役所2号館など、数年後の完成に向けて、既に工事が始まっており、街の様子はどう変わっていくのか、時代の変化も見据えながら、情報共有も必要です。そこで、現在、2丁目理事を含む三宮センター街周辺エリアの地権者有志が集まり、神戸市役所の協力を得ながら、「まちづくり検討会」を実施し、情報共有・意見交換を繰り返しながら、街の将来像について、来年度の前半を目途に「地域のまちづくり方針案」を取りまとめています。2丁目メンバーとしては、昨年7月に開催した隈研吾氏の講演会・パネルディスカッションで提案された、“ヒューマンな(人間的な)歩いて楽しい街”をヒントにしながら、自分たちの街をどうしていくのかを自分達で考え、既に取り組んでいる“アートストリート”、“安全安心な街”、“地域防災”、“他都市との外交”などを意識しながら、検討会に参加しています。組合員の皆さんやそのお客様、神戸地域の皆さんに気持ち良く過ごして頂けるよう、一緒に取り組んで行こうと思います。



★ポートタワーで川西 英先生の作品展がありました

神戸ポートタワーの屋上デッキや展望フロア、低層1階エントランスやチケット売場を運営する株式



会社フェリシモさんが「あのころの神戸～川西英・祐三郎展覧会～」を神戸ポートタワー展望1階「Gallery360」にて1月31日まで開催しています。川西英「メリケン波止場」や川西祐三郎「みなと遊歩」など18点が展示されています。“あのころの神戸”を今の神戸と重ねて観られる展示会です。早速鑑賞してきました。

作品群と川西英先生(1894～1965)とご子息の川西祐三郎先生(1923～2014)の略歴などが説明と共に記されていました。ポートタワーが完成した1963年は英先生の最晩

年にあたります。お二人とも生まれ育った神戸の街を数々の木版画にしました。祐三郎先生は英先生の存命中は、あえて神戸の風景を手掛けなかったそうです。ですが英先生が世を去った後にポートアイランドや六甲アイランドが完成し、以前にはなかった眺望が出現したことで、神戸風景を描かれたそうです。お二人の作品からは1956年から1997年頃にかけての神戸の変遷を味わうことが出来ます。ご興味のある方は昨年リニューアルされたポートタワーを見学がてら川西先生親子の作品を楽しんでみては如何でしょうか。



★今年も新年会は盛況でしたよ！

1月7日（火）にサンセンタープラザ西館で三宮センター街2丁目振興組合主催の新年会が開かれました。



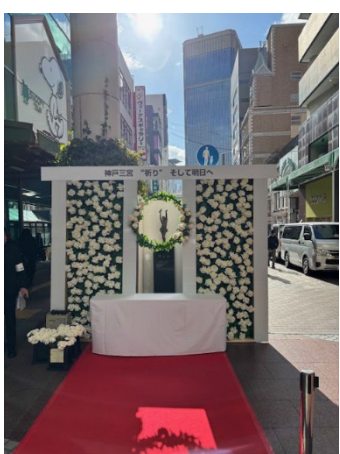
昨年と同じ様に各理事が手分けをして食材や飲み物を手配し、組合員、そして関係者の方々にお声がけし、開かれた会です。冒頭で今年、高校に進学されるウクライナから避難されているマリアさんに進学をお祝いして記念品が贈られました。マリアさんからは日本語も相当上達された様子が窺い知れました。美味しい料理と盛り上がった会話を総勢50人以上の方々を楽しみ、新年に相応しい明るい新年会となりました。加えて以前の様に飲食店を利用しての会より大幅に費用も軽減されており、さらに参加されている方々の総数も大幅増



になっており、外交を大事にしている2丁目振興組合としてはこれからもこの形での新年会を行って行きます。少し気が早いですが、来年の新年会にもどうぞ皆様ご参集頂けましたら幸いです。

★阪神淡路大震災から30年が経ちました

1月17日、阪神淡路大震災から30年が経ちましたが、例年の様にアートスクエアで午前11時から



慰霊祭が行われ、関係者のみならず、通行の方々も含めて献花を行いました。慰霊祭の冒頭に黙祷を捧げ、その後、関係者による挨拶といった言葉によるものではなく、一人一人が献花と共に静かに慰霊の心を犠牲になられた方々に捧げました。30年が経ったとは言え、災害の相次ぐ日本では、神戸の震災体験は少しも薄れることなく、震災未体験の30歳未満の人達にも「今そこにある危機」として伝えられていくでしょうし、日頃の防災に対する意識も常に警戒態勢であるべきです。つい先日の宮崎での地震で南海トラフ地震の今後30年間での発生確率が80%に引き上げられました。これからは以前にも増して、“備え”だけはおきましょう。



★編集後記

新年あけましておめでとうございます。宮崎の地震で少しヒヤッとしましたが、今年は昨年比べて比較的平穏なスタートとなりました。2025年の干支は乙巳（きのと・み）です。歴史学者・東洋古代思想史研究家の村上瑞祥氏は「『乙巳』は変化の年である。良い変化になるか、悪い変化になるかは人の英知に委ねられているのだろう。2025年『乙巳』は、いつも以上に目を凝らし、周到に日々を過ごし、適切な選択をして、確実に対応すれば、想像以上に大きな成果が手にできる年とも言えそうなのである」とされています。その他にも印象的なのは「無慈悲なようだが、『暦』は民衆にとって都合のいいものばかりを指し示してくれるとは限らない。だからこそ、自分にとって都合が悪い部分は上手に避け、うまく立ち回り、為政者の思惑を逆手に取り、自分の力に変えていくようにするのが、古くからの民衆の英知というわけである」と解説されています。まさに「人生の指針」とも呼ぶべきものではないでしょうか。大きな変革の年になりそうな2025年ですが、勇気を振り絞り、大胆に、且つ最強の注意力を駆使して、乗り切って参りましょう！今年もお付き合いの程、宜しくお願い致します。

美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

